

令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	2	学年	3年	類型	カレッジコース
教科書	子どもの発達と保育(新訂版) 実教出版			副教材	子どもの発達と保育(新訂版)学習ノート 実教出版				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点				学習のねらい・学習の目標・評価の観点			
				①	②	③	④	学習のねらい			
1 学期	4	1章 子どもの発達の特性	1節 発達と乳幼児期の意義	1子どもの発達	2乳幼児期の特徴	○		◎	<p>人の一生をライフサイクルとしてとらえ、それぞれのライフステージにおいてどのような発達をしていくのかを考えます。</p> <p>1学期は乳幼児の発達はめざましくすばらしいことを学びます。子ども用防災袋の製作にも取りかかります。</p> <p>2学期は子どもの生活について特に食生活を中心に学びます。また、児童文化財にふれたり、伝承遊びを経験したりする中から、子どもにとって遊びとは何か、その意義は何かを考えます。</p> <p>3学期は子どもをとり巻く環境について学びます。</p>		
			2節 発達と保育環境	1発達と保育環境のかかわり	2保育環境を整える		◎	○			
	5	2章 子どもの発達の過程	3節 児童観と発達観	1児童観・発達観とは	2こんにちの児童観・発達観	○		◎			
			1節 子どもの発育	1胎児の発育・発達	2乳幼児の身体的特徴	3乳幼児の生理的特徴	4発育の評価			○	◎
			2節 子どもの精神発達	1運動機能と感覚機能の発達			○			◎	
	6			2知的発達	3言葉の発達		◎			○	
				4情緒の発達				◎			○
3節 人間関係の発達				1愛着関係の形成			◎	○			
7			2人間関係の広がり			○	◎				
			期末考査			○	○	○	◎		
2 学期	8			3子どもの人格形成				◎	<p>学習の目標</p> <p>家庭総合の学習を基本として乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育に関する知識と技術を習得し、子どもかかわろうとする意欲や実際にかかることができる能力と実践的な態度を身に付けます。</p>		
				(子ども用防災袋製作)						◎	
	9	3章 子どもの生活	1節 生活と養護	1生活と健康	2栄養と食事		◎	○			
				3食習慣の形成	4衣生活と育児用品			○		◎	
				実習(離乳食・おやつ)					◎	○	
	10	4章 子どもの保育	2節 子どもの遊び	1生活と遊び	2遊びの援助		◎	○			
				児童文化財の製作			○		◎		
				3節 生活習慣の形成	1生活習慣の意義	2基本的生活習慣	3社会的生活習慣		○	◎	
				4節 健康管理と事故防止	1日常の健康管理	2病気の看病と予防	3事故の防止と応急処置		○		◎
	11	2節 家庭保育と集団保育	1節 保育の意義と重要性	1保育とは	2人間形成と保育		◎		○		
家庭保育				2集団保育			◎	○			
(親子ふれあい教室)							○		◎		
12	3節 保育の方法	1節 子どもの福祉	1保育者の役割とは	2指導のポイント		◎		○			
			期末考査			○	○	○	◎		
			5章 子どもの福祉	1児童福祉の理念			○		◎		
3 学期	1	2節 子育て支援	2児童福祉に関する法律			○		◎	<p>乳幼児の発達の特徴や乳幼児の生活と保育などに関する知識を身に付け、適切に子どもとかわることができるか。</p> <p>④ 知識・理解</p> <p>乳幼児の発達の特徴や乳幼児の生活と保育などに関する知識を実践的・体験的学習を通して身に付け、保育の必要性と意義を理解しているか。</p>		
			3児童福祉のための機関・施設			○		◎			
			3これからの子育て支援	4子育て支援の課題		○	◎				
	2	家庭学習				○	○	○		◎	
			''								
			''								
3											

※評価の観点 ①: 関心・意欲・態度 ②: 思考・表現 ③: 技能 ④: 知識・理解

◆学習方法のポイント

【子どもの発達と保育の特色】

○ 発達と保育は、乳幼児とふれあう学習や、授業での実習を通して、乳幼児の発育・発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識や技術を身に付け、子どもの健全な成長に関心を持ち、関わろうとする意欲や実際に関わることができる実践的な能力を育てることを目標としています。

【授業】

- 座学では教科書を中心に、乳幼児の発育や発達の特徴などの基礎知識を身につけていきます。配布されたプリント類はもれなく記入し、すべてノートに貼りましょう。特に自分の考えを述べる欄にはしっかりとした意見が書かれてあることが望ましいです。
- 保育人形を用いた実習によって、抱っこ、おんぶ、沐浴、衣服の着脱などの養護に関する基礎技術を身につけていきます。積極的に参加し、考察や感想をきちんと記録しておきましょう。
- 子どもの食生活の学習では、調乳、離乳食、幼児食の実習を通して正しい食生活のあり方を学びます。常に保育者の目線で子どもの食生活をとらえましょう。
- 子どもの遊びの学習では、布絵本の制作や読み聞かせなどを行って児童文化財に触れたり、手作りおもちゃの製作を通して子どもと遊びの関係を学びます。積極的に実習に取り組みましょう。
- 乳児ふれあい体験教室等に参加することにより、実際に乳幼児や保護者の方々とふれあって、子どもを生み育てることの意義や親子関係の大切さを認識できるようにします。

【家庭学習】

○ 日頃から乳幼児とふれあう機会をもって、子どもに対する興味・関心を高めておきましょう。また、保育者としての立場にも目を向け、親や自分の周りの人々と積極的に関わりをもつようにしましょう

【定期考査】

- 各学期末に1回実施します。教科書やプリントから、乳幼児の発育・発達の特徴、保育に関する知識について出題します。試験範囲の教科書やプリント等を見直して復習しておきましょう。
- 子どもや保育に関する文章や新聞記事に対する意見を問う問題も出題します。日頃から時事問題に興味を持ち、自分の考えをまとめておきましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業や実習への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を①関心・意欲・態度②思考・判断・表現③技能④知識・理解の四つの観点から評価します。実技テスト、定期考査をもとに総合的に評価します。
評価の基準	1学期 期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②の観点から評価します。) ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	2学期 期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②の観点から評価します。) ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	3学期 期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②の観点から評価します。) ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	学年 1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均をもとに評価